

## 2011年賃金引き上げ、夏季手当、諸手当等改善交渉の集約にあたって

3月28日13時30分、本部は、2011年賃金引き上げ、夏季手当、諸手当等改善交渉について、J R 東海労組組合員はもとより、他労組組合員の支援のもとたかかってきましたが、現状以上の前進を勝ち取ることは困難と判断し、今次交渉を集約し妥結を通告しました。

J R 東海の今年度の業績は、社員が努力した結果として、昨年を大きく上回り、年度末決算予想を上方修正するにまで至り、それは単体で会社発足以来5番目の収益となりました。私たちは、率直にその努力や、さらなる社員の「やる気」に応えるよう訴えました。しかし会社は景気の動向、業績、世間相場、世間水準、他企業の動向等を理由に並べ、端からベアや「昇給制度」の改訂、諸手当の改善への姿勢を示しませんでした。

トヨタは今年の平均定期昇給額が7300円でした。これに対して、J R 東海は最高でも4800円(乗数4の場合)です。そしてさらに年を追う毎に減額され、最後は400円(同)になります。会社は「試験に合格すれば昇給額も上がる」と簡単に言い放ちました。しかし、試験を受ければ全員が合格するわけではありません。社員の約半数は4800円すらの定期昇給ともならないのです。可否を判断するのは会社です。まさに「命令と服従」のための制度でしかありません。これで社員にやる気生まれるのでしょうか。

ベア3700円は生活の維持、格差是正のための最低限の要求でした。また「昇給制度」の改訂も社員のやる気の喪失を防ぐための最低限の要求でした。そしてそれは、J R 東海の未来にわたる繁栄を支える社員に対する、会社としての最低の応えだったのです。しかし会社は社員よりも世間体を守ったのです。夏季手当においても、会社は当初から業績には連動させないと予防線を張り、抑え込みをはかりました。業績が落ち込んだ昨年は、それに合わせて手当を抑え込みました。しかし今年は業績が上がっているのです。これでは社員がいくら努力して業績を上げて、社員には返ってきません。

役員の高額報酬と比べ、社員は搾り取られる一方です。このような現状でいいのでしょうか。J R 東海ユニオンは、今次回答を「組合員の努力と成果に最大限報いる回答である」と諸手をあげて絶賛しています。そのようなJ R 東海ユニオンに未来を委ねていて、将来安心なのでしょうか。

3月11日、東日本大震災が発生しました。想像を絶する被災地の状況を目の当たりにし、団交の日程も変更を余儀なくされました。団交の中で被災地の救援や復興に向けての労働組合としての決意や、会社への要請を行ってきました。しかし、会社はその議論すら拒否し、そして震災をも理由に持ち出し今回の回答を押し通しました。

災害時、社員は安全確保のために全力で会社に協力しました。その労苦に応え、また、震災による社会の閉塞感を打ち破り、さらに被災地の復興に向けた支援や協力をJ R 東海社員が真剣に取り組むためにも、満額回答は何よりもの力となることを私たちは主張しました。しかし会社は、冷酷にも拒否の姿勢を貫きました。このような会社の姿勢に、社員を大切にすることは見取れません。

私たちは、このような会社の姿勢を許すことなく、今後も社員を代表して皆さんの声を会社にぶつけ現状を変えるために闘います。また、被災地の復興に向けて全力を尽くします。今回の交渉において、皆さんからいただいたご支援に対して、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

2011年3月28日

J R 東海労働組合中央本部